

2024年度

第2四半期決算

期間：2024年1月1日～3月31日

2024年5月16日、ドイツ・ミュンヘン

堅調な第2四半期業績 – 安定した見通し

「第2四半期も引き続き私たちは、特にデータセンターと半導体業界において、デジタル化やサステナビリティへの高い需要のおかげで好業績を収めることができました。シーメンスは、企業レジリエンスの証として、スマートインフラストラクチャー、モビリティ、産業用ソフトウェアの分野で好調な収益実績を示し、これはデジタルインダストリーズのオートメーション事業での昨今の需要低迷をほぼ相殺するものでした。適切な戦略、適切なテクノロジー、適切なチームを有する当社は収益性の高い成長に向けて確固たる位置にいます。」と、シーメンスAG代表取締役社長兼CEOであるローランド・ブッシュは述べています。

「Innomoticsにより、私たちは、ポートフォリオの最適化という意味で新たに重要な一步を踏み出すことができました。上半期の堅調な業績、最新の格上げによって認識された非常に健全なバランスシート、そして記録的な受注残を踏まえ、当社はテクノロジーのリーディングカンパニーとしての将来、2024年度の見通しに自信を持っています。」と、シーメンスAGのラルフ・P・トーマスCFOは述べています。

- 第2四半期の売上高は、為替換算とポートフォリオの影響を除いた比較可能なベースで、前年同期とほぼ横ばい。モビリティ事業の大量受注による大幅な売上増加を含んだ2023年度第2四半期に比べ12%減。
- 名目ベースでは、売上高は1%減の192億ユーロ、受注高は13%減の205億ユーロ。シーメンスは成長路線を継続し、BBレシオは1.07となり、受注残高は1,140億ユーロに増加。
- インダストリアルビジネスの利益は25億ユーロ、利益率は14.0%で、いずれも前年同期に近い水準。
- 当期純利益は22億ユーロ。2023年度第2四半期の当期純利益36億ユーロには、シーメンスエナジーAGのシーメンス持分の減損の戻し入れによる16億ユーロの非課税利益が寄与。第2四半期業績リリースによると、当四半期の基本的1株当たり利益（EPS）は2.57ユーロ、購入価格配分会計適用前EPS（PPA前EPS）は2.73ユーロ。

SIEMENS

シーメンス

(単位：100万ユーロ)	第2四半期		増減 (%)	
	2024年度	2023年度	実績	比較
受注	20,451	23,638	(13)%	(12)%
売上	19,162	19,416	(1)%	0%
利益 (Adjusted EBITA) インダストリービジネス	2,513	2,577	(2)%	
内：退職手当	(56)	(87)		
利益率 (Adjusted EBITA) インダストリービジネス	14.0%	14.2%		
退職手当を除く	14.3%	14.7%		
継続事業からの利益	2,034	3,554	(43)%	
内：退職手当	(71)	(105)		
非継続事業からの利益、 (税控除後)	162	(3)	n/a	
純利益	2,196	3,551	(38)%	
基本1株あたり利益 (単位：ユーロ)	2.57	4.39	(41)%	
PPA前のEPS (単位：ユーロ)	2.73	4.57	(40)%	
フリーキャッシュフロー (継続事業と非継続事業)	1,344	2,350	(43)%	
キャッシュ・コンバージョン・ レート	0.61	0.66	(8)%	
ROCE (継続事業と非継続事業)	19.0%	30.5%		

- BBレシオは1を大きく上回る値の1.07。
- 受注動向には、モビリティ部門で2023年度第2四半期にインドで29億ユーロに上る機関車および関連メンテナンスの受注があったために比較基準が非常に高くなっている点と、デジタルインダストリーズのオートメーション事業の減少が強く影響。その他のインダストリアルビジネスの受注としては、スマートインフラストラクチャーが2桁増の受注増加を記録。
- 売上高は前年とほぼ同水準。デジタルインダストリーズのオートメーション事業の減少は、インダストリアルビジネスその他3つの分野での成長によってほぼ相殺。中でもスマートインフラストラクチャーの成長率が最も高かった。
- 為替換算効果により、受注と収益の伸びからそれぞれ1%ポイント減少。ポートフォリオ効果の影響は最小限にとどまった。
- インダストリアルビジネスの利益は、デジタルインダストリーズのオートメーション事業減益が、Siemens Healthineersとスマートインフラストラクチャー事業の利益増によってほぼ相殺されたため、前年とほぼ同水準を維持。
- 当期純利益は、法人税引当金の取り崩しにより、法人税費用が減少し、非継続事業がプラスに振れたことの好影響があったものの、現金効果はなかった。2023年度第2四半期の純利益には、シーメンスエナジーAGの株式の減損の一部取崩しによる継続事業収入の非課税利益16億ユーロを含む。
- フリーキャッシュフローの減少は、主にインダストリアルビジネスに起因し、2023年度第2四半期の27億ユーロに対し、今期フリーキャッシュフローは21億ユーロ。減益の主な要因は、デジタルインダストリーズの減益と、Siemens Healthineersの営業純運転資本の積み増しによる。
- 2024年3月31日時点の年金およびこれに類する債務の引当金は14億ユーロ(2023年12月31日:15億ユーロ)と低水準になっている。
- ROCEは安定した目標範囲内数値。